

技術士 CPD ガイドラインの改訂 (1/2)

頁	Ver.1.1	Ver.1.2																											
4	<p>(2) 技術士に求められる資質能力及び CPD 活動 技術の高度化、統合化等に伴い、技術者に求められる資質能力は、ますます高度化、多様化している。平成 26 年 3 月の分科会において、「技術士に求められる資質能力（コンピテンシー）」として、「専門的学識」、「問題解決」、「マネジメント」、「評価」、「コミュニケーション」、「リーダーシップ」、「技術者倫理」が示された（表－1）。</p>	<p>(2) 技術士に求められる資質能力及び CPD 活動 技術の高度化、統合化等に伴い、技術者に求められる資質能力は、ますます高度化、多様化している。平成 26 年 3 月の分科会において、「技術士に求められる資質能力（コンピテンシー）」として、「専門的学識」、「問題解決」、「マネジメント」、「評価」、「コミュニケーション」、「リーダーシップ」、「技術者倫理」が示され、令和 5 年 1 月 25 日の分科会において、改訂が行われ「継続研さん」が追加された（表－1）。</p>																											
5	コンピテンシーの表を最新版に差し替え																												
6	<p>(2) CPD 活動の資質区分及び形態区分 技術士の CPD 活動は「技術士に求められる資質能力（コンピテンシー）」に基づき、大きく専門的学識及び一般共通資質の 2 つの資質区分に分けることができる。</p>	<p>(2) CPD 活動の資質区分及び形態区分 技術士の CPD 活動は「技術士に求められる資質能力（コンピテンシー）」(表－1)に基づくと、「継続研さん」は行動としての資質能力で全体に関わることから、それ以外の 7 つを大きく専門的学識及び一般共通資質の 2 つの資質区分に分けることができる。</p>																											
6	<p>(表－3) CPD 活動の形態区分と形態項目 の改訂</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 20%;">形態区分</th> <th style="width: 40%;">形態項目</th> <th style="width: 40%;"></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3" style="text-align: center;">Ⅰ. 参加型</td> <td style="text-align: center;">1 講演会</td> <td>→ 講演・研修</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">2 企業内研修</td> <td>→ 組織内研修</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3 学協会活動</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="4" style="text-align: center;">Ⅱ. 発信型</td> <td style="text-align: center;">4 報文・論文</td> <td>→ 論文・報告文</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">5 講師・技術指導</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">6 図書執筆</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">7 技術協力</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">Ⅲ. 実務型</td> <td style="text-align: center;">8 資格取得</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">9 業務成果</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">Ⅳ. 自己学習型</td> <td style="text-align: center;">10 多様な自己学習</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		形態区分	形態項目		Ⅰ. 参加型	1 講演会	→ 講演・研修	2 企業内研修	→ 組織内研修	3 学協会活動		Ⅱ. 発信型	4 報文・論文	→ 論文・報告文	5 講師・技術指導		6 図書執筆		7 技術協力		Ⅲ. 実務型	8 資格取得		9 業務成果		Ⅳ. 自己学習型	10 多様な自己学習	
形態区分	形態項目																												
Ⅰ. 参加型	1 講演会	→ 講演・研修																											
	2 企業内研修	→ 組織内研修																											
	3 学協会活動																												
Ⅱ. 発信型	4 報文・論文	→ 論文・報告文																											
	5 講師・技術指導																												
	6 図書執筆																												
	7 技術協力																												
Ⅲ. 実務型	8 資格取得																												
	9 業務成果																												
Ⅳ. 自己学習型	10 多様な自己学習																												

【改訂理由】

4～6 頁：分科会において（表－1）の改訂が行われたことによる。

6 頁（表－3）：より適切な表現にするため。

技術士 CPD ガイドラインの改訂 (2/2)

頁	Ver.1.1	Ver.1.2																									
6	<p>(3) 形態区分別 CPD 時間算定基準 (目安)</p> <p>参加型は講演会参加を基準として1時間当たりの参加を 1 CPD 時間とし、学協会活動を除いて上限を設けない。発信型は学術誌への論文掲載を基準として1件当たり 40 CPD 時間とし、上限を設けない。実務型は表彰や特許など成果の明確なものに限定し、かつ年間の上限を設ける。自己学習型は自己学習を基準として1時間当たりの学習時間を 0.5~1.0 CPD 時間に換算し、かつ年間の上限を設ける等を目安とする。(表-4)</p>	<p>(3) 形態区分別 CPD 時間算定基準 (目安)</p> <p>参加型は講演会参加を基準として1時間当たりの参加を 1 CPD 時間とする。発信型は学術誌への論文掲載を基準として1件当たり 40 CPD 時間とする。実務型は表彰や特許など成果の明確なものに限定する。自己学習型は自己学習を基準として1時間当たりの学習時間を 0.5CPD 時間とする。</p> <p>また、それぞれの形態区分及び形態項目において、必要に応じて年間の上限を設けることができる。(表-4)</p>																									
7	<p>(表-4) 形態区分別 CPD 時間算定基準 (目安) の改訂</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th style="width: 20%;">形態区分</th> <th style="width: 60%;">基準となる形態項目</th> <th style="width: 20%;">上限</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>参加型</td> <td>講演会参加 : 1時間当たり1CPD時間</td> <td>なし*</td> </tr> <tr> <td>発信型</td> <td>論文掲載 : 1件当たり40CPD時間</td> <td>なし</td> </tr> <tr> <td>実務型</td> <td>成果の明確なものに限定</td> <td>あり</td> </tr> <tr> <td>自己学習型</td> <td>自己学習1時間 : 0.5~1.0CPD時間</td> <td>あり</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">* 学協会活動を除く</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th style="width: 20%;">形態区分</th> <th style="width: 80%;">基準となる形態</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>参加型</td> <td>講演会参加 : 1時間当たり1CPD時間</td> </tr> <tr> <td>発信型</td> <td>論文掲載 : 1件当たり40CPD時間</td> </tr> <tr> <td>実務型</td> <td>成果の明確なものに限定</td> </tr> <tr> <td>自己学習型</td> <td>自己学習 : 1時間当たり0.5CPD時間</td> </tr> </tbody> </table>		形態区分	基準となる形態項目	上限	参加型	講演会参加 : 1時間当たり1CPD時間	なし*	発信型	論文掲載 : 1件当たり40CPD時間	なし	実務型	成果の明確なものに限定	あり	自己学習型	自己学習1時間 : 0.5~1.0CPD時間	あり	形態区分	基準となる形態	参加型	講演会参加 : 1時間当たり1CPD時間	発信型	論文掲載 : 1件当たり40CPD時間	実務型	成果の明確なものに限定	自己学習型	自己学習 : 1時間当たり0.5CPD時間
形態区分	基準となる形態項目	上限																									
参加型	講演会参加 : 1時間当たり1CPD時間	なし*																									
発信型	論文掲載 : 1件当たり40CPD時間	なし																									
実務型	成果の明確なものに限定	あり																									
自己学習型	自己学習1時間 : 0.5~1.0CPD時間	あり																									
形態区分	基準となる形態																										
参加型	講演会参加 : 1時間当たり1CPD時間																										
発信型	論文掲載 : 1件当たり40CPD時間																										
実務型	成果の明確なものに限定																										
自己学習型	自己学習 : 1時間当たり0.5CPD時間																										
9	<p>附記 に3. を追記</p> <p>1. 技術士 CPD ガイドラインは…</p> <p>2. 技術士法施行規則の一部を改正する省令 (令和 3 年 9 月 8 日文部科学省省令第 43 号) が…</p> <p>3. 2023 年 1 月 25 日、分科会において「技術士に求められる資質能力 (コンピテンシー) が改訂されたことに伴い、2023 年 5 月 10 日付けで技術士 CPD ガイドライン Ver.1.1 を改訂し、技術士 CPD ガイドライン Ver.1.2 とする。</p>																										

【改訂理由】

6~7 頁: より大まかな基準として適切に表現するため。

9 頁: 附記の追加。

(表-1) の改訂部分：(赤字)

(表-1) 技術士に求められる資質能力(コンピテンシー)

平成26年3月7日
改訂令和5年1月25日
科学技術・学術審議会
技術士分科会

キーワード	解説
専門的学識	<ul style="list-style-type: none"> ・技術士が専門とする技術分野(技術部門)の業務に必要な、技術部門全般にわたる専門知識及び選択科目に関する専門知識を理解し応用すること。 ・技術士の業務に必要な、我が国固有の法令等の制度及び社会・自然条件等に関する専門知識を理解し応用すること。
問題解決	<ul style="list-style-type: none"> ・業務遂行上直面する複合的な問題に対して、これらの内容を明確にし、調査し、必要に応じてデータ・情報技術を活用して定義し、これらの背景に潜在する問題発生要因や制約要因を抽出し分析すること。 ・複合的な問題に関して、多角的な視点を考慮し、ステークホルダーの意見を取り入れながら、相反する要求事項(必要性、機能性、技術的実現性、安全性、経済性等)、それらによって及ぼされる影響の重要度を考慮したうえで、複数の選択肢を提起し、これらを踏まえた解決策を合理的に提案し、又は改善すること。
マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> ・業務の計画・実行・検証・是正(変更)等の過程において、品質、コスト、納期及び生産性とリスク対応に関する要求事項、又は成果物(製品、システム、施設、プロジェクト、サービス等)に係る要求事項の特性(必要性、機能性、技術的実現性、安全性、経済性等)を満たすことを目的として、人員・設備・金銭・情報等の資源を配分すること。
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・業務遂行上の各段階における結果、最終的に得られる成果やその波及効果を評価し、次段階や別の業務の改善に資すること。
コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> ・業務履行上、情報技術を活用し、口頭や文書等の方法を通じて、雇用者、上司や同僚、クライアントやユーザー等多様な関係者との間で、明確かつ効果的包摂的な意思疎通を行う、協働すること。 ・海外における業務に携わる際は、一定の語学力による業務上必要な意思疎通に加え、現地の社会的文化的多様性を理解し関係者との間で可能な限り協調すること。
リーダーシップ	<ul style="list-style-type: none"> ・業務遂行にあたり、明確なデザインと現場感覚を持ち、多様な関係者の利害等を調整し取りまとめることに努めること。 ・海外における業務に携わる際は、多様な価値観や能力を有する現地関係者とともに、プロジェクト等の事業や業務の遂行に努めること。
技術者倫理	<ul style="list-style-type: none"> ・業務遂行にあたり、公衆の安全、健康及び福利を最優先に考慮したうえで、社会、文化経済及び環境に対する影響を予見し、地球環境の保全等、次世代にわたる社会の持続性の確保に努め持続可能な成果の達成を目指し、技術士としての使命、社会的地位及び職責を自覚し、倫理的に行動すること。 ・業務履行上、関係法令等の制度が求めている事項を遵守し、文化的価値を尊重すること。 ・業務履行上行う決定に際して、自らの業務及び責任の範囲を明確にし、これらの責任を負うこと。
継続研さん	<ul style="list-style-type: none"> ・業務履行上必要な知見を深め、技術を修得し資質向上を図るよう、十分な継続研さん(CPD)を行うこと。 ・CPD活動を行い、コンピテンシーを維持・向上させ、新しい技術とともに絶えず変化し続ける仕事の性質に適應する能力を高めること。